

## 中小企業の2019年冬季ボーナス支給予定

- ～ 支給企業は2年連続増加
- ～ 平均支給額はリーマンショック直後の水準に迫る

長引く米中貿易摩擦や中国などの海外経済の減速に加え、人手不足や消費増税の影響もあり、中小企業の景況は先行き不透明感が強まっている。今年の冬季ボーナスは消費増税直後の支給となるが、中小企業の支給予定はどうであろうか。当金庫取引先企業を対象にアンケート調査を実施した。

調査時点：2019年11月上旬

調査依頼先数：1,097社

調査対象：大阪シティ信用金庫取引先企業（大阪府内）

有効回答数：1,030社

調査方法：聞き取り法

有効回答率：93.9%

業種 \ 従業者	20人未満	20～49人	50人以上	計	構成比
製造業	296社	78社	26社	400社	38.8%
卸売業	139	11	6	156	15.1%
小売業	41	6	3	50	4.9%
建設業	151	18	6	175	17.0%
運輸業	56	19	11	86	8.4%
サービス業	140	21	2	163	15.8%
<b>計</b>	<b>823</b>	<b>153</b>	<b>54</b>	<b>1,030</b>	100.0%
構成比	79.9%	14.9%	5.2%	100.0%	-

## 1. 冬季ボーナスの支給予定

### - 支給企業が2年連続増加

すべての企業に対し、今年は冬季ボーナスを支給するかどうか聞いた結果が第1表である。

全体で見ると、「支給する」企業は65.2%で、前年冬に比べ4.4ポイント増加した。支給企業割合が増加するのは2年連続であり、2008年9月のリーマンショック以降で最も高くなった（後掲3ページの時系列表参照）。

業種別で見ると、支給企業割合は建設業（74.3%）や製造業（69.2%）で比較的高いのにに対し、小売業（38.0%）では4割に満たない。前年冬との比較では、サービス業（3.7）で唯一低下した。

従業員規模別で見ると、支給企業割合は20～49人（86.9%）や50人以上（85.2%）の比較的規模の大きい層で8割を超え高い一方、20人未満（59.9%）の小規模では6割程度にとどまっている。

第1表 冬季ボーナスの支給予定 ( % )

項目		支給する	支給しない	計	支給する (対前年冬比増減)
区分					
業 種 別	製造業	69.2 (64.2)	30.8 (35.8)	100.0	5.0
	卸売業	63.5 (61.2)	36.5 (38.8)	100.0	2.3
	小売業	38.0 (35.5)	62.0 (64.5)	100.0	2.5
	建設業	74.3 (63.5)	25.7 (36.5)	100.0	10.8
	運輸業	61.6 (55.4)	38.4 (44.6)	100.0	6.2
	サービス業	57.7 (61.4)	42.3 (38.6)	100.0	3.7
規 模 別	20人未満	59.9 (54.8)	40.1 (45.2)	100.0	5.1
	20～49人	86.9 (80.1)	13.1 (19.9)	100.0	6.8
	50人以上	85.2 (87.5)	14.8 (12.5)	100.0	2.3
全 体		65.2 (60.8)	34.8 (39.2)	100.0	4.4

( ) 内は2018年冬の調査結果

## 2. 1人あたり平均支給予定額

- 平均支給予定額は29万7,639円

前項1で「支給する」と答えた企業（全企業の65.2%、672社）に対し、1人当たりの支給予定額（加重平均）を聞いた結果が第2表である。

全体で見ると、正社員1人当たりの平均支給予定額は29万7,639円で、前年冬に比べ2万1,153円、率にして7.7%増加する見込みである。同支給予定額の増加は2年ぶりで、リーマンショック直後の2008年11月調査(30万701円)に次いで高くなった(時系列表参照)。

増加する企業の増加要因（複数回答）としては、「(ア)従業員のモチベーションを向上させるため(士気高揚)」が増加企業の83.0%となり、「(イ)業績が好調なため」(60.0%)を上回った。これに対し、減少する企業の減少要因(同)では、「(カ)業績が不調なため」が減少企業の78.6%と圧倒的に多い(後掲3ページの参考表参照)。

業種別で見ると、支給予定額は運輸業(33万6,824円)が最も多くなった。前年冬と比べ全業種で増加しているが、増加額では最も多い運輸業(6万3,774円)から最も少ない製造業(1,625円)まで大きな差異がみられる。

従業員規模別で見ると、規模が大きいほど支給予定額や対前年冬比増加額が多くなっている。

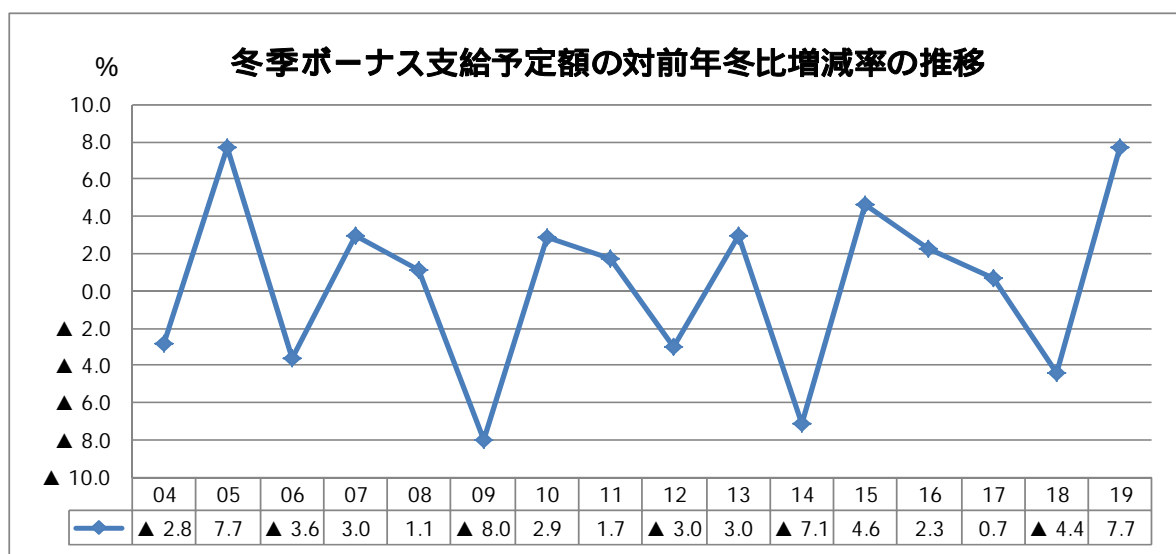
第2表 1人あたり平均支給予定額(加重平均) (円、%)

区分	項目	平均支給予定額		対前年冬比	
		2019年冬	2018年冬	増加額	増加率
業種別	製造業	282,652	281,027	1,625	0.6
	卸売業	282,484	265,278	17,206	6.5
	小売業	278,472	235,938	42,534	18.0
	建設業	318,389	284,488	33,901	11.9
	運輸業	336,824	273,050	63,774	23.4
	サービス業	309,191	285,484	23,707	8.3
規模別	20人未満	274,594	267,188	7,406	2.8
	20~49人	288,346	262,030	26,316	10.0
	50人以上	338,587	298,661	39,926	13.4
全体		297,639	276,486	21,153	7.7

時系列表 冬季ボーナスの支給状況（2004年以降、全体）

（%、円）

項目 年	支給企業割合		平均支給額 (加重平均)		
		対前年比増減		対前年比増減額	対前年比増減率
2004年	71.1	0.2	278,353	7,888	2.8
2005年	72.0	0.9	299,838	21,485	7.7
2006年	73.6	1.6	288,904	10,934	3.6
2007年	71.4	2.2	297,511	8,607	3.0
2008年	62.3	9.1	300,701	3,190	1.1
2009年	56.2	6.1	276,506	24,195	8.0
2010年	50.4	5.8	284,416	7,910	2.9
2011年	49.0	1.4	289,375	4,959	1.7
2012年	50.2	1.2	280,805	8,570	3.0
2013年	56.2	6.0	289,090	8,285	3.0
2014年	58.3	2.1	268,518	20,572	7.1
2015年	57.6	0.7	280,772	12,254	4.6
2016年	61.5	3.9	287,119	6,347	2.3
2017年	57.7	3.8	289,143	2,024	0.7
2018年	60.8	3.1	276,486	12,657	4.4
2019年	65.2	4.4	297,639	21,153	7.7



参考表 支給額の対前年冬比増減要因

（複数回答、%）

項目 区分	増加要因					減少要因			
	(ア) 士気 高揚	(イ) 業績 好調	(ウ) 離職 防止	(エ) 給与 引上げ	(オ) 世間 相場	(カ) 業績 不調	(キ) 人件費 圧縮	(ク) 世間 相場	(ケ) 従業員 増加
全 体	83.0	60.0	35.0	14.0	9.0	78.6	35.7	21.4	7.1
2018年冬	84.9	72.1	29.1	-	3.5	88.2	11.8	5.9	5.9

### 3. 今冬ボーナスの支給事情

- 「無理をして支給」が14.4%

最後に、「支給する」と答えた企業に対し、今冬の支給は自社の収益状況に照らしてどの程度であるか聞いた結果が第3表である。

全体でみると、「適正範囲内で支給する」と答えた企業が85.4%と圧倒的に多い。一方、「多少無理をして支給する」と答えた企業は14.6%であり、前年冬と比べ1.4ポイントわずかながら減少した。

業種別でみると、「多少無理をして支給する」企業割合は、製造業（18.1%）や運輸業（17.0%）で比較的高くなっている。

従業員規模別でみると、「多少無理をして支給する」企業割合は、50人以上（17.4%）で最も高く、前年冬と比べて10.3ポイント増加した。

第3表 今冬ボーナスの支給事情

(%)

区分	項目	適正範囲内で 支給する	多少無理をして 支給する	計	多少無理をして支給 (対前年冬比増減)
業 種 別	製 造 業	81.9 (84.4)	18.1 (15.6)	100.0	2.5
	卸 売 業	84.8 (88.2)	15.2 (11.8)	100.0	3.4
	小 売 業	89.5 (81.8)	10.5 (18.2)	100.0	7.7
	建 設 業	92.3 (79.6)	7.7 (20.4)	100.0	12.7
	運 輸 業	83.0 (78.4)	17.0 (21.6)	100.0	4.6
	サ-ビス業	87.2 (87.2)	12.8 (12.8)	100.0	0
規 模 別	20人未満	85.4 (82.6)	14.6 (17.4)	100.0	2.8
	20~49人	86.5 (85.0)	13.5 (15.0)	100.0	1.5
	50人以上	82.6 (92.9)	17.4 (7.1)	100.0	10.3
全 体		85.4	14.6	100.0	1.4
2018年冬		84.0	16.0	100.0	3.3
2017年冬		80.7	19.3	100.0	0.9
2016年冬		79.8	20.2	100.0	-

( )内は2018年冬の調査結果

以 上